

# 生きる力を育む小学校英語の創造

～コミュニケーション力を高めるICTの効果的な活用～

学校名	岡崎市立本宿小学校
所在地	〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町三本松入14-1
ホームページ アドレス	<a href="http://www.oklab.ed.jp/weblog/motojuku/">http://www.oklab.ed.jp/weblog/motojuku/</a>

## 1. 研究の背景

本校は、平成20年度に岡崎市教育委員会より小学校英語活動のパイロット校に指定され、ALTとST（英語支援員）、学級担任の三者で行うという、斬新な英語活動の授業の模索を始めた。平成21年度には岡崎市教育委員会より3年間の研究委嘱を受け、「生きる力を育む小学校英語の創造」を主題に授業実践研究の取組を始めた。毎朝8分間、岡崎市自作の英語DVD教材の視聴（Eタイム）の継続や、1年生から6年生までのより有効な英語活動の授業を目指し、独自に「本宿小英語活動カリキュラム」を作成し授業実践を積み重ねた。平成23年11月には、3年間の研究の集大成として研究発表会を開催。全学級でEタイムと英語活動の授業を公開した。授業は全ての学級においてオールイングリッシュで実施。学級担任が主導しながらALT・STの役割を明確にし、三者が連携した授業モデルを提案した。24年度はカリキュラムや各授業の内容を見直しつつ研究を深め、その成果を11月に再び授業研究協議会（全国公開）で発表した。

こうした実践研究を通して、小学校英語の授業で子供たちが楽しく意欲的に英語を話すためには、英語を話す状況の分かりやすい提示が重要であることが明確になった。それには、ICTの活用が有効である。これまで、毎朝、英語DVDを継続的に視聴し、具体物や写真、絵カード、場面絵、映像などを部分的に授業に取り入れてきた。また、大型テレビやスマートボードなどを活用し、デジタルコンテンツを英語活動の授業に利用している教師もいる。ただ、それらの利用は限定的であったり、単発的であったりし、その有効性については深く追究できていない。そこで、小学校英語活動における、情報機器やデジタルコンテンツを含めたICTの効用を組織的に研究することで、子供たちの英語によるコミュニケーション力を育むための、より効果的な英語活動の授業を目指したいと考えた。

## 2. 研究の目的

情報機器やデジタルコンテンツを含めたICTの効用を組織的に研究することで、子供たちの英語によるコミュニケーション力を育むための、より効果的な英語活動の授業を目指す。

## 3. 研究の方法

- (1) 研究推進委員会、研究推進全体会を実施（委員会は月に1回程度、全体会は学期に1回程度）する。委員会で英語活動の研究方針を決め、全体会で共通理解して、授業への取組の歩調を合わせる。
- (2) 英語活動授業研修会を実施（年に4回程度）する。外部講師を招き、ICTを活用した授業実践と協議会を行う。ICTの有効性についての学習と授業での検証、講師の先生からの指導助言を仰ぎ、その後の授業研究に生かす。
- (3) 全校英語集会を実施（英語集会は年に2回、ミニ英語集会は年に5回）する。岡崎市の全ALTを招き、児童が外国人に対しても主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が育まれる英語集会を実施する。また、児童が

主体となり、全校で歌やゲームなどを通して英語に親しんだり、コミュニケーションの楽しさを味わったりできるミニ英語集会を実施する。

(4) 英語活動の授業公開(年に1回開催)を行う。一昨年、昨年に続き、英語DVDの視聴タイム(Eタイム)や英語活動の授業を公開し、その後「授業を語る会」を開くことで、本校の取組の成果と課題を明らかにする。平成25年度は、文部科学省教科調査官直山木綿子先生、愛知教育大学教授高橋美由紀先生にご助言いただき、授業改善に生かす。

(5) 児童、保護者、教員へのアンケートを実施(3学期)する。全校児童、保護者、教員に対してアンケートを実施し、英語活動の取組を評価する。教師に対しては前年度までと同じ内容の質問に加え、ICTに関する質問をして本年度の研究の評価とする。評価結果は学校便りなどで保護者や児童に示すとともに、以降の研究に生かす。

(6) 学校関係者評価委員会を開催(年に3回)する。学校評議員には、英語集会や英語活動の授業公開を参観していただくとともに、アンケート結果を提示して指導助言を仰ぎ、以降の研究に生かす。

#### 4. 研究の内容・経過

- ・4月4日 校内研究推進全体会を行い、本年度の英語活動研究の方針や目標、研究の方法を共通理解した。
- ・5月9日 校内英語活動授業研修会を実施した。講師は、岡崎市英語科指導員の山本和代先生。英語活動の授業展開のポイントや大型テレビを活用した教材提示による効果について、具体的な授業を通して研修した。
- ・5月13日 第1回ミニ英語集会を実施した。2年生の児童が司会・進行により、全校で英語の歌や基本的なあいさつ、簡単なゲーム「ラッキーゲーム」を行い、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わった。
- ・6月4日 校内英語活動授業研修会を開催した。講師は、愛知教育大学教授 高橋美由紀先生。英語活動におけるデジタルコンテンツの効用と具体的な活用方法について、具体的な授業を通して研修した。
- ・6月18日 第2回ミニ英語集会を実施した。6年生の児童が主体になり、全校で英語の歌やダンスを覚え、英語で歌を口ずさみながら踊ることの楽しさを味わった。



第1回ミニ英語集会



第2回ミニ英語集会



直山木綿子先生の講演

- ・6月28日 校内英語活動授業研修会を開催した。講師は、文部科学省教育課程課調査官 直山木綿子先生。英語活動の目指す方向と課題について研修した。具体的な授業の場面を通して、授業改善するべき点や本校の研究へのアドバイスを受けた。

- ・7月17日 全校英語集会を実施した。岡崎市の全ALT(19名)を招き、英語の歌やあいさつ、クイズ、名刺交換ゲームなどの活動を通して、多くの外国人や異学年の子と英語でコミュニケーションを行った。



ALTの出題したクイズに答える



岡崎市のALTのみなさん

- ・8月5日 校内英語活動研修会を開催した。講師は、愛知教育大学教授 高橋美由紀先生。小学校英語活動の理論的背景や、各学年の発達段階に沿った活動内容、授業展開における効果的な指導法などを研修した。また、英語活動に使える歌や絵本などについても紹介していただいた。実際に子供の前に立っての授業を模擬的に研修することで、実践的な研修の場になった。



高橋美由紀先生による校内研修

- ・8月7日 校内ICT研修会を実施した。パソコン室におけるICT機器の効果的な活用法や、スマートボードの英語活動での有効活用について研修した。

- ・9月24日 校内英語活動授業研修会を実施した。講師は、愛知教育大学教授 高橋美由紀先生。各学年・学級の授業をもとに、授業研究協議会に向けて、英語活動の授業展開や教材・教具などについて指導・助言をいただいた。

- ・10月11日 英語活動授業研究協議会を開催。愛知県内外から約350名の参観者を集め、岡崎市自作の英語DVDの視聴（Eタイム）と全学年で英語活動の授業を公開した。その後、高学年部会、中学年部会、低学年部会、特別支援教育部会に分かれ、「授業を語る会」を行った。公開した授業を中心に英語活動のよりよい授業のあり方について協議した。高学年部会では、愛知教育大学教授 高橋美由紀先生に、具体的な授業場面や本校の研究についてご助言をいただいた。また講演では、文部科学省教科調査官 直山木綿子先生に、本校の研究や英語活動の取組について評価と指導・助言をいただいた。



英語活動の授業



電子黒板を使った英語活動の授業



授業を語る会(低学年部会)



直山木綿子先生の講演

- ・10月28日 第3回ミニ英語集会を実施した。5年生の児童が主体になり、全校で英語のコミュニケーションによるイングリッシュトレインゲームを楽しんだ。集会を通して、児童が簡単な英語や絵カードを利用してゲームの説明をしたり進行したりした。



第3回ミニ英語集会

- ・11月18日 第4回ミニ英語集会を実施した。3年生の児童が司会進行を務め、全校児童での英語のじゃんけんインタビューをするゲームを行った。

- ・12月18日 英語集会を実施した。授業研究協議会で児童と一緒に授業をしたALTを招き、各学年で歌やゲームなどを楽しみながらクリスマスに関連した英語のコミュニケーション活動を行った。

- ・1月25日 本年度の英語活動に関するアンケートを児童、保護者、教員に実施し、英語活動への取組の成果や課題を明らかにするための資料とした。

- ・1月31日 校内英語活動授業研修会を実施した。講師は、愛知教育大学教授 高橋美由紀先生。英語活動の授業でI

CTを効果的に導入する授業展開について、具体的な授業を通して総合的に研修する。

- ・2月10日 第5回ミニ英語集会を実施した。1年生の児童が司会進行を務め、英語の数字を使った仲間集めゲームを通して、全校児童が楽しくコミュニケーションをする楽しさを味わった。
- ・2月24日 学校関係者評価委員会を開催した。学校評議員の方々に、本年度の教育活動や英語活動についてのアンケート結果評価を報告し、評価と指導助言を受けた。
- ・3月 本年度の英語活動授業研究の成果と課題を研究収録にまとめた。

## 5. 研究の成果

### (1) 児童の英語によるコミュニケーション力の向上

毎朝、英語DVDを視聴することで、児童が英語を聞く耳が育ってきている。外国人の英語に耳が慣れ、ネイティブに近い発音を身に付けた児童が増えてきた。学年の発達段階に応じた本校独自のカリキュラムによる英語活動の授業の積み重ねによって、自分の思いや意思を英語で伝えることのできる児童が多くなっている。(右の資料参照)

また、電子黒板やタブレットを活用したことは、児童のコミュニケーション力の向上に有効であった。(下の資料参照)

- ・4年生の授業で、3サークルに1台ずつタブレットがあることで、子供たちの動画を使うことができすごいと思いました。
- ・6年生の授業で、子供がわくわくしながら英語を話せるように電子黒板が効果的に活用されているのに感激しました。発表する側、聞く側の両方に良いと思いました。

<授業研究協議会参観者アンケートより>

高学年の授業に感激しました。ただ子供たちへ投げかける授業ではなく、子供たちが自身の思いや意見を発言する姿を見て、とても素晴らしい授業・カリキュラムだなと思いました。

<授業研究協議会参観者アンケートより>



タブレットを活用しての会話

### (2) 教師の指導力の向上

右の資料からも分かるように、本校の英語活動の特徴である、担任教師が授業を組み立て、ALTとSTを最大限に生かした授業展開が高い評価を得ている。その際、音楽や映像を活用することで、授業によりテンポやリズムが生まれる。担任教師の授業力が、ICTの活用によって向上した成果だと考える。

また、All Englishの英語活動において最も大切にしなければならないことに、英語を話すときの状況設定がある。できる限り児童に身近な題材で状況を

担任の先生が授業の舵取りをしている様子を見て、とても勉強になりました。3人で連携して授業を作っていることがよく分かりました。ALTやSTに頼りっぱなしにせず、自分も担任としてやれることをやっていきたいと思いました。

<授業研究協議会参観者アンケートより>

考案し、授業の展開にどう組み込んでいくかが重要になる。ICTを含めた教材研究を組織的に行ってきたことで、とくに若い教師の指導力が向上してきている。

### (3) 研究実践の他校、他地域への波及

本校の英語活動の授業を参観された先生方は、簡単な英語を使うことで、All Englishの授業ができるという認識を得られたようである。(右の資料参照) 岡崎市内の先生方はも

- ・All Englishを重視しており、見習おうと思いました。「Wow!」や「I see.」などの感嘆の表現も、自分の意見・感情の表現として授業で取り入れていきたいと思いました。
- ・Eタイムでも授業でも、一人一人と話すのは簡単なようで実は大変なことです。その成果があって、大きな声で話したり歌ったり踊ったりしている子供たちを見ると、生きて働く力になっていると感じました。参考にさせていただきます。

<授業研究協議会参観者アンケートより>

もちろん、市外や県外からも多くの参観者が来られたため、本校の研究が広まっていくことを期待している。EタイムのDVD視聴には、とくに市外、県外の先生方からの反響が大きく、南淡路市教育委員会・校長会の方々(35名)や、越前市教育委員会(7名)の学校訪問を受けた。

## 6. 今後の課題・展望

本校の研究の目標は、「英語が話せる本宿っ子」であり、岡崎市の英語教育の目標は「英語が話せる岡崎っ子」である。児童の英語によるコミュニケーション力を、義務教育9年間で身に付けていくことを目指している。そこで、小学校と中学校との接続が重要になる。右の資料からも、小学校と中学校との連携が課題であることが読み取れる。また、小学校間の連携にも取り組み、中学校へ進学したとき、どの小学校から来た児童も抵抗なく、そして効果的に英語教育を受けられるようにしていかなければならない。

6年生がリピートですらすら英語を言い、自分の意見を言おうとしている姿を見て、中学校でこの力をなくさないようにどうしたらよいかを考えさせられました。また、グループでずっと英語を使って話している姿には感心しました。自分も授業でがんばろうと強く思いました。

<授業研究協議会参観者アンケートより>

そのためには、9年間を見通した指導内容の吟味、改善をし、カリキュラムを見直していくことが必要である。同時に、授業展開や指導方法についても、小学校と中学校との間でさらに理解を図り、使用する教材・教具、ICTの活用の方法なども共有していく。

とくに、ICTの活用は、映像に慣れている現代の児童生徒には有効である。本年度の研究で導入したタブレットは、これまで使ってきたフラッシュカードや絵カード、写真などを1つのディスプレイに表示することができる。動画を表示した際には、児童の目がいっそう輝いた。さらにタブレットの効果的な活用方法を追究していく。

また、本年度、校内Lanを使って Skype によるネット授業の試行をした。6年生の教室と職員室をつないで、英語の会話を行うものである。児童の興味関心を高め、コミュニケーションの意欲を喚起するのに有効であった。この試みをさらに進め、他校とのネット授業、海外の学校とのネット授業を試行していきたいと考えている。



Skypeを使ったネット授業の試行

## 7. おわりに

1月に、本年度の学校診断アンケートを実施した。そのうち、英語活動についての回答を見ると、児童は92%、保護者は95%、教職員は93パーセントが本校の特色として評価していることが分かった。一方、学校関係者評価委員会では、英語活動授業研究会の参観を通して、児童が英語を使ってコミュニケーションをする様子を高く評価する声が多く聞かれた。

ただ、学校診断アンケートの結果で、コンピュータなどの情報教育の積極性に関して前向きな回答をしているのは、児童は81%、教職員は53%にとどまっている。英語活動を中心にICTの研究と活用をさらに進めて、情報教育の活性化を目指したい。

平成25年12月、文部科学省より英語教育の大幅な改革の提示がなされた。小学校英語においても、教科化や英語活動開始の中学年への前倒し、授業時間数の増加などが示されている。これを受けて、本校でも英語活動カリキュラムの見直しや文字の導入など、来年度の研究について検討しているところである。

平成26年度も、本校は10月29日に英語活動授業研究協議会を開催する。現状に甘んずることなく、ますます研究を重ね、全国から参観者を集めて成果を公開するとともに、より児童に寄り添い、未来に働く力になる英語活動になるよう評価と指導を仰いでいきたいと考えている。